



ぐんま“まちづくり”ビジョン シンポジウム

群馬県 県土整備部 都市計画課

群馬県都市計画協会と群馬県主催、(公財)群馬県建設技術センター協賛による「ぐんま“まちづくり”ビジョンシンポジウム」が令和4年7月15日(金)、群馬会館2階ホールで3年ぶりに開催されました。

基調講演 『サステナブルな都市と地域をつくる～都市全体のかたちと地域のまちづくり～』

サステナブルアーバンフォーム(持続可能な都市形態)、まちづくりに関わる多様な人々の協働によるまちづくりでは、効率的な都市活動、猛暑や水害等に耐えられる環境を如何につくるかといったチャレンジをしていかなければなりません。

今回は、東京大学大学院工学系研究科 村山 顕人 准教授に、私たちの暮らしを取り巻く、環境負荷、防災・減災、人口減少・超高齢社会への適応といった様々な状況の変化や課題に、まちづくりを通じて取り組む方法や、産学官民協働で都市や地域を形成する手法等について様々な事例を交えてご講演をいただきました。地域主体のまちづくりを推進してきましたが、その多くが目の前の問題解決が目的となっていました。小さなアクションを積み重ね、市街地環境の更新と併せて、ITツールを利用しながら未来のニーズも満たす『まち』を『つくる』ため、地球を中心に据えたまちづくりといった大きな視野で捉えること、課題を診断することの必要性についてご教授いただきました。村山准教授、貴重なご講演をありがとうございました。



村山准教授



講演の様子

事例発表 前橋市『前橋市のまちなかウォークアブルの推進について』

前橋市が令和元年9月に策定公表した『前橋市アーバンデザイン』、先進的な取り組みとして「居心地が良く歩きたくなるまちなか」をキーワードに、前橋市都市計画部市街地整備課の濱地副主幹が事例発表を行いました。



濱地副主幹

策定エリア内で高い効果が期待できる広瀬川河畔をモデルプロジェクトに選定し、エコ・ディストリクト、ミクストユース、ローカルファーストの方向性(ビジョン)を官民で共有しながら機運を高めるプロモーション活動。完成時のイベントや完成後の人流調査等を予定するなど、前橋デザインコミッションをはじめとする民間プレーヤーとまちなかウォークアブル推進の動きが見える形での展開がはかられています。今後の前橋市の取り組みに、さらなる期待を抱かせる素晴らしい発表でした。